

Key
Person



合同会社 くすのき保育園 代表

門 麻美

2017年6月東京都足立区に開園した、企業主導型保育園『くすのき保育園』。開園以来、地域に密着した運営を続け、働く親世代の味方として活躍している。同園の門代表は、自らも3児の母という保護者の立場から、信念をもって保育を行う。それは「自分の子どもを大事にしているから、他人の子どもを大事にできる」ということ。一人の保護者として、子どもへの深い愛情を持ち、保育への責任を理解しているからこそ、一人の保育者として、慈愛と使命感を以て子どもたちの成長に寄り添い、その保護者たちと共に成長の喜びを共有できる。今後も、地域に密着しながら関わる子と親に寄り添った保育に尽力していくことだろう。

「自分の子どもを大事にしているから、他人の子どもを大事にできるんですよ」

子どもと保護者のことを考え 「ここ」だからできる保育を

合同会社 くすのき保育園

東京都足立区六月 1-20-26

URL : <http://kusunoki-h.babymilk.jp>



ゲスト 村野 武範

代表 門 麻美



2017年6月に開園した企業主導型保育園『くすのき保育園』。門代表は、子どもたちとそれぞれの保護者のことを考え、園を運営している。その思いに共感が集まり、保護者と良好な信頼関係を築いている。本日は村野武範氏が同園を訪問し、お話を伺った。

——まずは門代表が保育業界に入られたきっかけから伺います。

幼少のころ、通っていた保育園の先生の優しさに触れ、その人柄に憧れまして、小学生の時から保育士を目指していました。短大で資格を取得し、卒業後はいくつかの園で経験を積みながら、その間に結婚し、3人の子どもに恵まれました。

——保育士だけでなく、母としての視点も持っているというわけですね。

ええ。自分の子どもを見ないで、他人の子どもを見るのか、と思われる人もいますが、自分の子どもを大切にしているからこそ、他人の子どもを見ることができるといのが私の信念なんです。

——素敵なお考えです。ところで、代表が園を開かれた経緯とは？

当時長く働いていた園は、早番・遅番のシフト制で朝早く、もしくは夜遅く働いていたので、育児にシワ寄せがきてしまうことがありました。しかし、それは私の信念に反しています。ですから、そちらを退職し、自分の子どもを優先すべく固定勤務ができるという条件で園を探し、企業が運営する園で働くことに。た

だ、利益を求める点や、すぐに必要なものでも会社からの許可が必須で、対応が遅れる点に息苦しさを感じたんです。そこで、私が保育園をつくれれば、子どもたち優先の保育を実践できると考えたのと同時に、職員が働きやすい環境もつくっていけると判断。地元で当園を設立し、1年が経ちました。

——『くすのき保育園』さんの特徴をお聞かせ下さい。

定員が20名という少人数制の保育に加えて、職員にも恵まれましたので、アットホームな雰囲気はどこにも負けていません。そんな特徴を生かした行事の一つ、「クリスマス会」も保護者様と共に、アットホームな雰囲気楽しんでいただくことができました。

——アットホームな環境ですか。園の雰囲気の良さが伝わってきますね。

ありがとうございます。当園に入園し、

認可保育園に空きができたからと、途中でそちらに移る子もいます。経営的には厳しくなるのですが、空きがでるまでの期間だけでも、そのご家庭のお役に立てたことを嬉しく思います。また、一度退園した子が、当園の雰囲気が良かったからと、入園し直してくれたり、卒園児が遊びにきてくれたりもするので、園を続けていて良かったと感じます。

——最後にこれからの目標を伺います。

経営に関しては素人で、まだまだだと思います。しかし、保護者様と子どもたち、職員の関係を見ていると、良い環境になっていると自負しています。これからはさらに、認可外であったとしても「ここが良い」と言って下さる方が増えるように、そして子どもたちがのびのびと過ごせる保育園を目指していきます。また、当園では、子どもが保育園に入園できず復職できない従業員がいらっしゃる企業様、採用を進めるにあたり保育施設を完備して求人募集をしたい企業様などの提携企業を募集しています。今後も働く親世代に寄り添い、運営していきたいです。

(取材／2018年6月)

After the Interview

「門代表の芯の強さ、保育に対する思いの強さを感じることができた対談でした。実は地元で園を開いたのは、亡くなられたお父様が地域に密着した建材店を営んでいたからだろう。お父様から仕事は受け継げなくても、その意志は受け継げる。そのことから、代表の芯の強さを感じましたね」

村野 武範・談